

# 2008 立山三山縦走&劔岳 報告書

日程；9月3日夜～7日 三泊四日+予備日1日

場所；富山県立山(標高2500m)

形態；パーティ

難易度；体力 ...3

技術 ...2.5(立山縦走のみ) 劔岳登頂の場合 -

目的；立山&劔岳登頂、室堂&黒部湖散策

## メンバー

CL:川原将司(テント本体)

SL:藤田琢也(食料)

装備:笠井高人(食料+調理セット)

救急:内藤友人(テントサブ)

記録:溝口昇太(調理補助)

## タイムスケジュール

前日夜(9月3日)

集合；JR 京都駅北 新阪急ホテル前 22：30

移動；(富山地方鉄道高速バス) 23：00 京都駅前発

内藤ザック重し...

一日目(9月4日) (室堂～劔沢)

移動；富山駅 05：30 着 【 途中、溝口-電車を止める。】

電鉄富山駅 05：44 発～室堂(2500m)08：00 着 (富山地方鉄道)

登山； 室堂 09：30 発

09：50 ミクリガ池温泉(温泉卵を食す)

10：36 新室堂乗越着

12：12 劔御前小屋着、軽食

13：00 劔沢着、幕営

17：26 夕食(麻婆茄子)

18：30 就寝

明日は天気良ければ劔アタック

二日目(9月5日) (劔沢～劔岳～雷鳥沢)

起床； 3：30 起きる→朝食(ラーメン)→二名リバース 体調不良のためアタック断念、立山縦走へ。

登山 ; 05 : 30 キャンプ場出発  
06 : 15 別山着 視界よし-劔岳綺麗  
08 : 00 大汝山(3015m)、小休止  
08 : 30 雄山着 休憩&昼食  
09 : 10 出発 笛の音がする  
10 : 35 別山トラバース完了  
11 : 19 劔沢着、夕方までまったり~  
18 : 30 夕食終了(カレー)  
明日晴れなら劔岳へ。  
雨なら雷鳥沢撤退

### 三日目(9月6日)

起床 ; 03 : 00 星きれい

登山 ; キャンプ場 04 : 50

劔山荘 05 : 20

一服劔 05 : 25 日の出&ブロッケン現象

前劔 06 : 18

劔岳山頂(標高 2998m)07 : 45、槍&富士山が見える。 山頂 08 : 15 発

前劔 09 : 30 2班に分かれる。

劔沢キャンプ場 10 : 20 着 (休憩含む) 撤収準備

移動 ; 劔沢キャンプ場 12 : 00 発

別山乗越 12 : 40

雷鳥沢キャンプ場 13 : 38 着

周辺散策、温泉入浴

### 四日目(9月7日)

起床 ; 5 : 00

移動 ; 雷鳥沢キャンプ場 6 : 30 発(\*) ~ 室堂バスターミナル 7 : 30 着 (徒歩)

室堂 8 : 00 発 ~ 美女平 8 : 50 着、9 : 00 発 ~ 電鉄富山駅 10 : 10or11:07 着 (富山地方鉄道)

JR 富山駅 12 : 22 発(北陸本線) ~ 金沢 13 : 21 着、14 : 04 発 ~ 福井 15 : 31 着、15 : 45 発 ~ 敦賀 16 : 37 着、16 : 51 発 ~ ~ JR 京都駅 18 : 42 着

(\*)藤田のみ次の山合宿のため黒部ダム方面へ  
ただし、悪天候のためアルペンルートを使用。

## 費用

交通費；京都 - 富山 夜行高速バス 3880 円  
 電鉄富山 - 室堂 電車&ケーブルカー &バス往復 6530 円  
 富山 - 京都 青春18切符 2300 円

(\*) 京都 - 富山 夜行高速バス 3880 円  
 富山 - 室堂 電車&ケーブルカー &バス片道 3530 円  
 黒部ダム - 信濃大町 2830 円  
 信濃大町 - 青春18切符 2300 円

食費；1000 円程度 風呂代500円 計 15000 円程度

**団体装備；** ステラ6テン、 鍋セット×2、バーナーヘッド×4、 調理セット、 救急セット  
 ペグ、 ハンマー×2 (藤田)個人用1テント×1

**個人装備；** メインザック(60 以上)、 シュラフ、 レインウェア、 断熱マット、  
 ヘッドランプ、 着替え(上着など含)、 防寒着、 飲み物容器、 食器類  
 予備電池、 タオル、 帽子(バンダナ可)、 非常食、 ライター(マッチ)  
 ゴミ袋、 トイレットペーパー、 ティッシュ、 折り畳み傘、 日焼け止め、 お風呂セット、  
 身分証&保険証(コピー可)、 新聞紙、 洗面用具、 常備薬、 ザックカバー、 行動食、  
 サブザック、 計画書、 ラジオ、 嗜好品(お酒、お菓子)、  
 青春18切符、 行動食(昼食用含)、

## [食料計画]

	朝	昼	夜
3日(初日)	個人	個人	親子丼、お吸い物
4日(2日目)	炊き込みご飯、わかめスープ	たらこスパゲティ、玉葱スープ	麻婆茄子丼、わかめスープ、缶詰
5日(3日目)	ラーメン、餅	個人	カレー、ご飯
6日(4日目)	ラーメン	個人	野菜炒め、ご飯、玉葱スープ
7日(予備日)	ちらし寿司	個人	

3日：親子丼(卵、ちくわ、玉葱、米)、お吸い物(レトルト)

4日：炊き込みご飯(人参、ごぼう、醤油、米)、わかめスープ(レトルト)

たらこスパゲティ(たらこスパの素、生パスタ)、玉葱スープ(玉葱、固形コンソメ)

麻婆茄子(CookDoの素、茄子、米)、わかめスープ、缶詰(個人)

5日：ラーメン、餅

カレー(玉葱、人参、じゃが芋、ルー)、米

6日：野菜炒め(ブナシメジ、キャベツ、玉葱)、米、玉葱スープ(玉葱、固形コンソメ)

7日：ちらし寿司(すし太郎、米)

## 各種連絡先

・ 上市警察署 室堂警備派出所 076-465-5778

## 緊急連絡先

京都産業大学学生部 075-705-1432

顧問 横山茂樹

在京連絡人

## 各自データ

氏名	生年月日	血液型	携帯番号	実家住所	実家電話番号
笠井高人					
藤田琢也					
内藤友人					
溝口昇太					
川原将司					

## 感想

### ・ 川原将司

「剣は、アルパインの人でも大勢来る、危ないところ」と、話を聞いていた。

フリークライミングの経験がある自分は、少々不安と、今までの経験を活かせる機会がきたことに武者震いしながらの待ちに待った合宿だった。

標高 2,999m の剣岳は、岩が突出してできたような岩山である。剣岳登山中、眼前に迫る剣岳を眺め、果たしてどのように取り付けばいいのかと、ルート把握に考えを巡らせていた。「カニノタテバイ」と呼ばれる岩壁は、この山の核心になっているのだろう。打ち込まれた杭に、足を置き、手でしっかりとつかみ、数分ではあったが、苦勞して超えることができた。頂上は、思ったよりも広く、下山を控えた登山者たちが休憩をとっていた。剣岳は、下りもやはり厳しく、鎖を頼りに進んで行った。登山を終え、一頻り感動の余韻に浸ってから、ゆっくりと下山をした。

剣岳以外にも大いに見所があった。立山縦走では、自分の影の周りにブロッケン現象が起き、これ幸いとシャッターを切った。また、この縦走で、初の 3,000m 越えを果たすことができた。軽装での縦走というのもあったのだが、縦走路が綺麗に整備されており、簡単に 3,000m を体験でき、雷鳥沢を見下ろす綺麗な景色も目にすることができた。

合宿を終えて思ったことは、軽装の登山も良いものだということである。程よい運動で済むし、何より、綺麗な景色を余裕を持って眺めることができるので、心配事も無く登山をすることができるからである。

今後、北アルプスに来る機会があれば、山中はサブザック行動ができるような計画を立ててみたいと思った。

#### ・笠井高人

まさか行くことになるとは自分自身でも思ってもみなかった劔岳・立山縦走合宿。ひと夏に黒部立山アルペンルートを複数回使用するなんて、なんと幸せ(?)結果的にこちらの合宿が学生最後の夏山となった。

コースは比較的ラクだと事前に聞いていたためにかなり気を緩めて参加した。そのせいもあり生涯初となるひどいことになってしまった。劔沢で嘔吐。(これより全国劔沢計画始動)この合宿の感想をズバリ言うと、正直もうインスタントラーメンは食べたくない。あの油臭い感じが嫌だ。この合宿の感想はこれに尽きる。

あと付け足すならば、劔岳は登り応えがありいつもと一味違った登山が楽しめたことだ。場所により登山というより登攀に近かった。また、今回も温泉が良かった。1月前の室堂~新穂高合宿の時の温泉と泉源は変わらないが、日本最高峰の温泉というレッテルが良い。温泉に限りリピーターになっても良いように思えた。

心残りは諸事情により立山連峰縦走を完遂することができなかったことである。まあそれくらいは社会人になってもできそうなのでやってみよう。

#### ・内藤友人

今回の合宿が初の夏山合宿ということで体力面や技術面での不安を抱えていましたが、藤田先生の指導の下ということもあり、大きな怪我やトラブルもなく無事下山することができました。

体力面では、日頃の運動不足+ラーメン屋巡りで弛んだ体との戦いになり、特に登りでは足はなんとか動きましたが腰が痛み、一步一步が激痛との戦いでした。技術面では、やはり下り坂で足の使い方がマズかったせいか、つま先を痛めてしまいました。また、無駄な食料を詰めすぎて装備の重量が30キロになってしまったのもマズかったと思います。

そして本合宿のクライマックスであります劔岳登頂は数回崖から転落しかけてましたが、「火事場のなんとか」や藤田先生の適切な指導により登頂に成功し、無事日本一の難所を踏破することに成功しました。

我々4回生が引退すれば、我が部山班は壊滅的なダメージを受けますが、数年後再起し、今回のような合宿を開いて欲しいと思います。

#### ・溝口昇太

今回の劔岳では昼食の分を考えていない事がわかったり、体調は万全ではなかったものの、念願の3000mに登ることが出来、とてもうれしかった。サブザックでの行動はまだしもメインザックでの行動はもっと経験をつむほうがいいと感じた。来期はどうなるかはわからないものの、もしチャンスがあったらもう一度行ってみたい。

#### ・藤田琢也

探検部で最後の劔岳合宿。初めて劔に挑戦した二回生の頃が懐かしくもあります。

そんな感慨を感じながら、またいつもと違った面々で劔へ登ることにうれしくも不安な気持ちで歩いていました。初日から体調不良者が続出し、一時はどうなることかと思いましたが、なんとか無事全員！山頂を踏むことが出来、一生の思い出になったことと思います。

きっと独りでは行けなかった場所。

一番楽しかった場所。

またいつか行きたいですね。。